

漢字のしくみ

漢字の構成法には、四つの種類があります。その第一は、象形です。象形とは、形を象かたどるという意味の語で、形のある物について、それをスケッチ風に描いた、言わば絵文字というべきものです。従って、これに所属する文字は、字形をよく観察すれば、大よその見当のつくものが多くあります。

第二は、指事です。指事とは、形のない、抽象的な事からについて、その事を符号的に指し示す、という意味の語で、「上」「下」というような字がこれです。

形のある物は“象形”で、形のないものは“指事”で、すべての言葉はこの二つの方法で表わせるはずですが、単純な内容のものは表わすことができても、内容の複雑なもの、また表わしにくい言葉もあります。そこで、この“象形”“指事”を基にして、それらを組み合わせることにより、複雑な内容を表わすことを考え出しました。これが、“会意”

と“形声”という方法です。

会意とは、“意味を会わせる”という意味のことばで、人と木とを組み合わせ、**“人が木のおかげでやすむ”**という考え方で「休」という字を作ったのがこの例です。

しかし、象形、指事、会意によって作られた漢字は、漢字全体から見ると、ほんの一部に過ぎません。漢字の大部分、およそ 90%までは“形声”字なのです。

形声とは、「形と声との両面を備えた文字」という意味のことばです。形とは、象形の形で、“言葉の内容”“物事の実体”を指しています。声とは、ことばの発音のことです。つまり、ことばの“意味”と“発音”とを兼ね備えた文字、という意味であって、形声文字をよく観察すれば、その文字の持つ意味も発音も知ることができるのです。